

経済・金融 フラッシュ

ロシアの物価状況(23年11月) —前月比の高い伸び率が継続

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比では7.48%まで上昇

12月7日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(23年11月)】

- ・前年同月比は7.48%、市場予想¹(7.53%)より下振れ、前月(6.69%)から上昇(図表1)
- ・前月比は1.11%、市場予想(1.20%)より下振れ、前月(0.83%)から加速

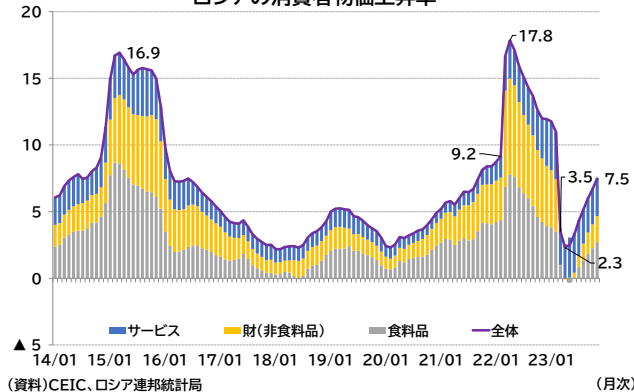
【コア指数²(23年11月)】

- ・前年同月比は6.36%、市場予想(6.27%)より上振れ、前月(5.50%)から上昇した(図表2)
- ・前月比は1.01%、市場予想(1.10%)より下振れ、前月(0.89%)から加速した

(図表1)

(前年同月比、%)

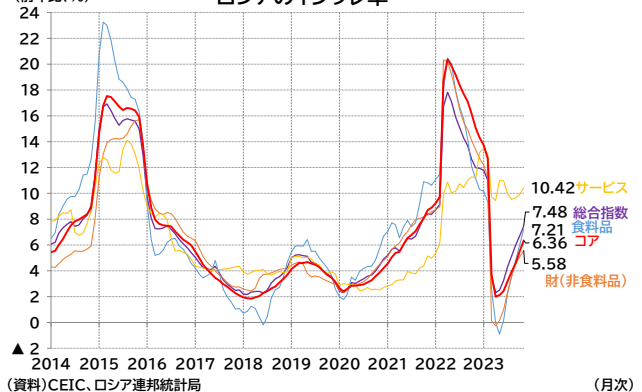
ロシアの消費者物価上昇率



(図表2)

(前年比、%)

ロシアのインフレ率



2. 結果の詳細:前月比ではコロナ禍前の標準的な上昇率を大幅に上回った状態が継続

11月のロシアのインフレ率は前年比で7.48%となり、10月の6.69%からさらに上昇した。7か月連続で上昇し、ロシア中銀のインフレ目標(4%)は5か月連続で上回ったことになる。

インフレ率を大分類別に見ると、11月の前年比伸び率は食料品が7.21%、財(非食料品)が5.58%、サービスが10.42%となり、すべての分類で上昇している。前年比寄与度ではサービスが2.7%ポイント程度、食料品が2.7%ポイント程度、財(非食料品)が2.0%ポイント程度となっている。11月は特に食料インフレの押し上げ幅が大きい(図表1)。

11月の前月比伸び率は、総合指数で1.11%、コア指数で1.01%となった。前月(総合指数0.83%、

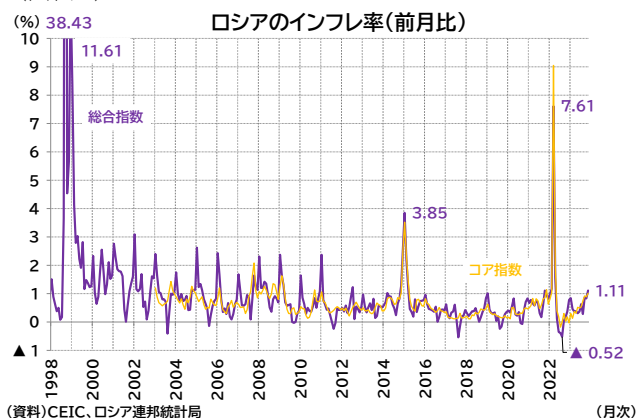
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

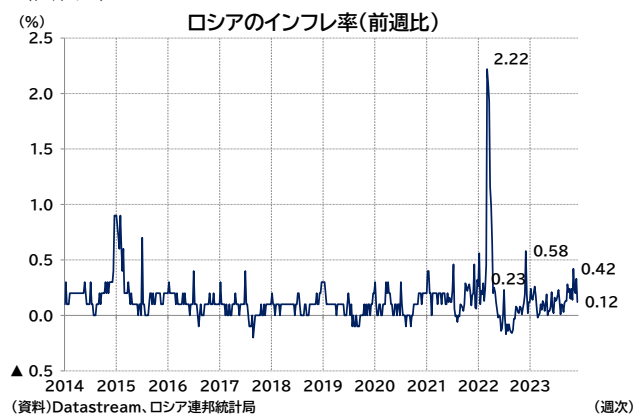
コア指数 0.89%) より加速し、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率を大幅に上回った状態が続いている（2018 年の前月比伸び率は平均で総合指数が約 0.35%、コア指数が約 0.30%、図表 3）。前月比伸び率を大分類で見ると食料品が 1.55%、財（非食料品）が 0.53%、サービスが 1.23% となり、食料品伸び率の高さが目立つ。またサービスの伸びも加速している。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では最新の 12 月 4 日時点の前週比で 0.12% となっており、12 月に入ってインフレ圧力はやや落ち着いている（図表 4）。

(図表 3)



(図表 4)

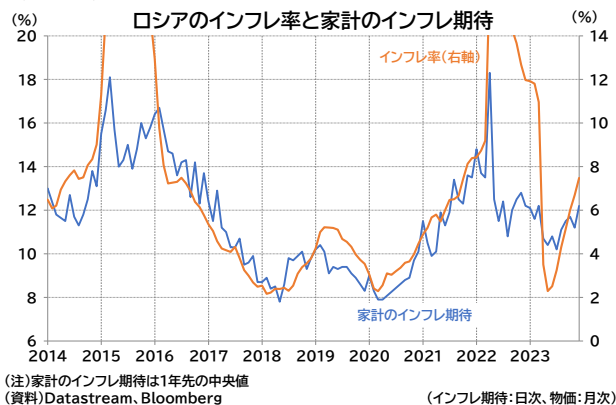


ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、11 月で 12.2% と上昇した。ただし、過去の傾向と比較すると期待インフレ率は実際のインフレ率ほど上昇しておらず、期待インフレと実際のインフレ率の乖離は縮小している（過去の傾向は、期待インフレ率 \approx 前年比インフレ率 + 6%、図表 5）。

品目別の上昇率を見ると³（図表 6）、11 月は前年比で卵（40.29%）、その他サービス（22.94%）、海外旅行サービス（27.53%）、青果物（23.89%）の伸び率が高い。一方、テレビ（▲9.15%）は相対的に下落率が大きい。

前月比では、卵（15.07%）、その他サービス（10.52%）、青果物（5.51%）、海外旅行サービス（4.04%）、旅客サービス（3.54%）の上昇率が相対的に大きく、グラニュー糖（▲2.83%）の下落率が相対的に大きい。

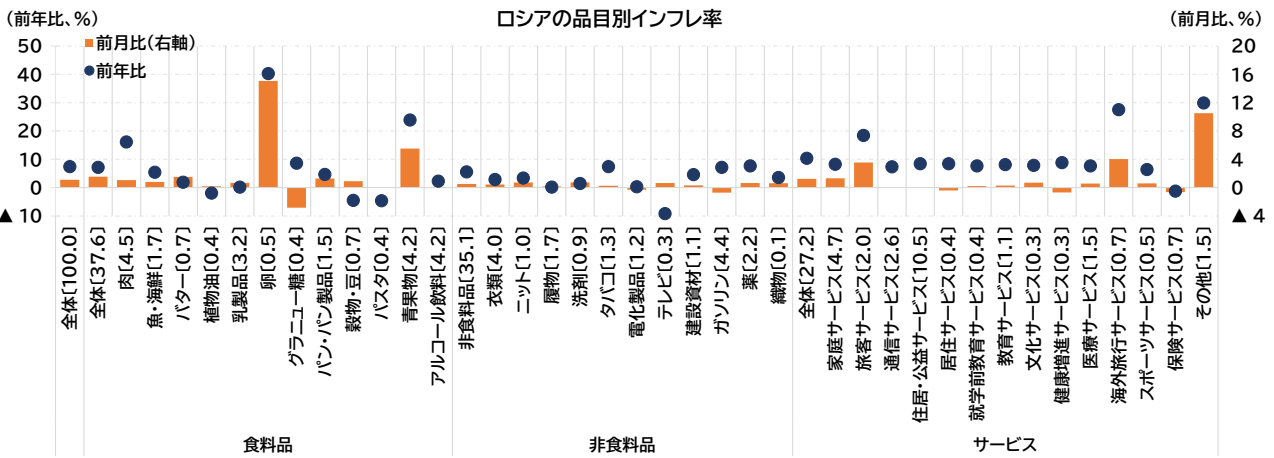
各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は青果物（1.00%ポイント）、住居・公益サービス（0.90%ポイント）、肉（0.72%ポイント）、その他サービス（0.44%ポイント）、家庭サービス（0.39%ポイント）、旅客サービス（0.38%ポイント）、ガソリン（0.32%ポイント）だった。また、前年比のマイ



³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。

ナス寄与が大きい品目は、穀物・豆（▲0.03%ポイント）となったが、マイナス幅は小幅にとどまる。

(図表 6)

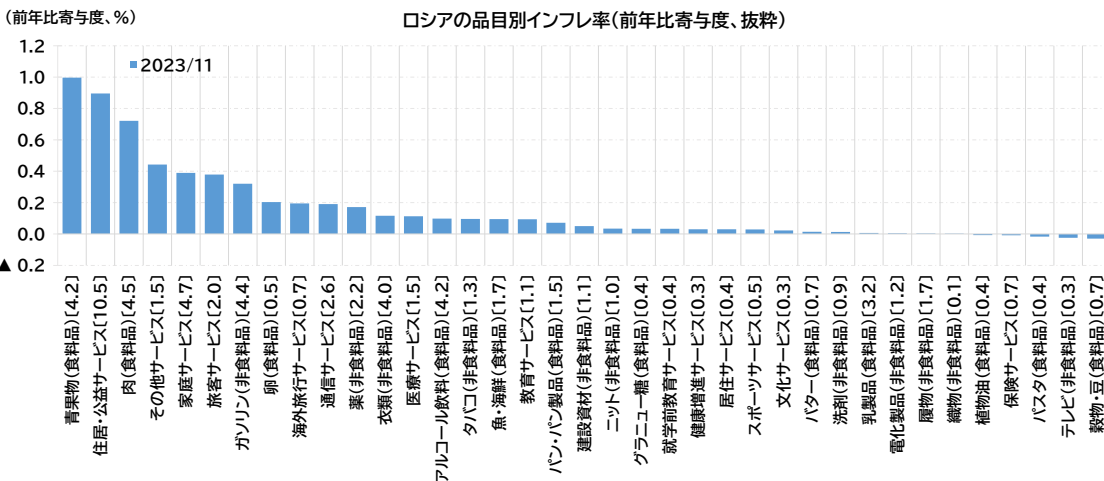


(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

前月比上昇率の寄与では青果物（約 0.23%ポイント）、その他サービス（約 0.16%ポイント）、卵（約 0.08%ポイント）、旅客サービス（約 0.07%ポイント）、家庭サービス（約 0.05%ポイント）、肉（約 0.05%ポイント）の押し上げ寄与が大きく、ガソリン（約▲0.03%ポイント）は押し下げに貢献している。

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む 10 月の前年比上昇率寄与を見ると、乗用車なども物価を押し上げていることが分かる（図表 9）。

(図表 7)

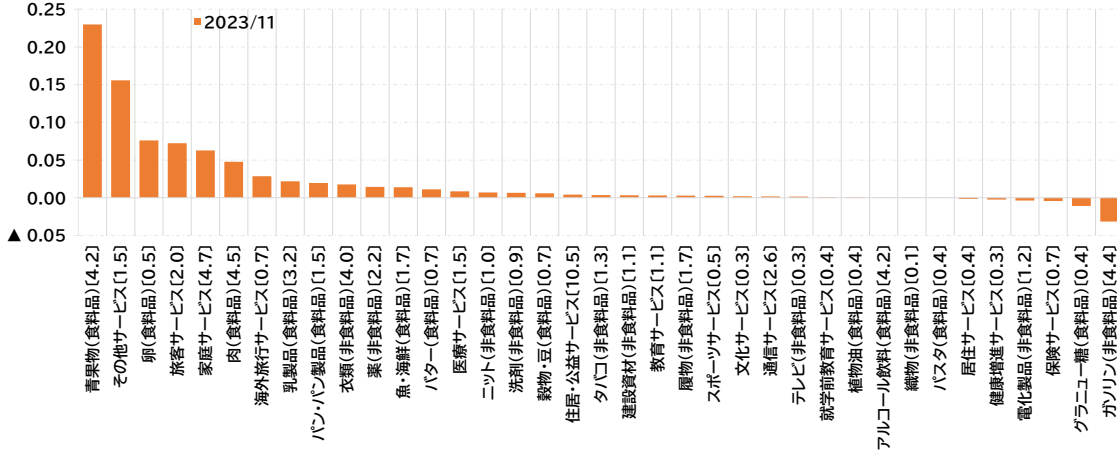


(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 8)

(前月比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前月比寄与度、抜粋)

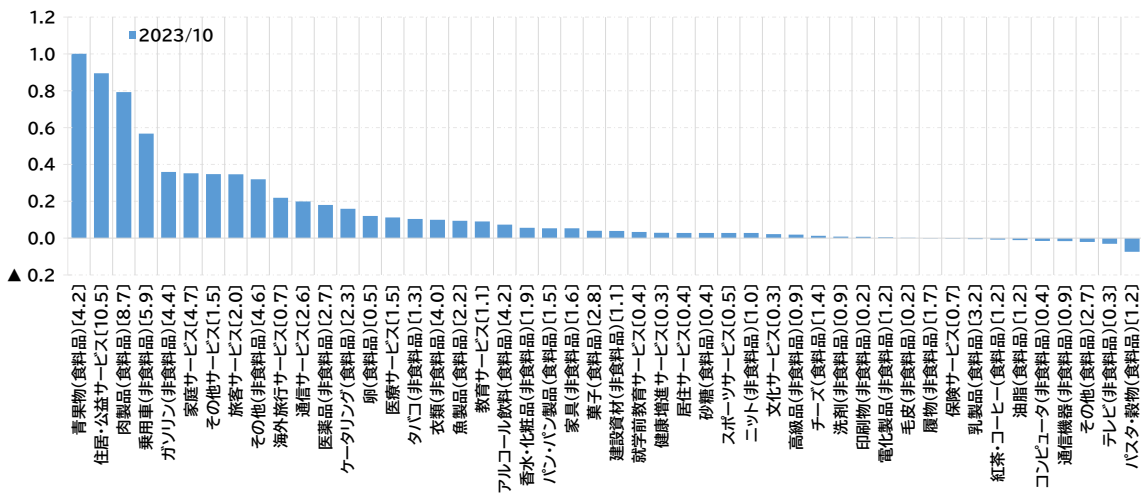


(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、口内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 9)

(前年比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前年比寄与度)

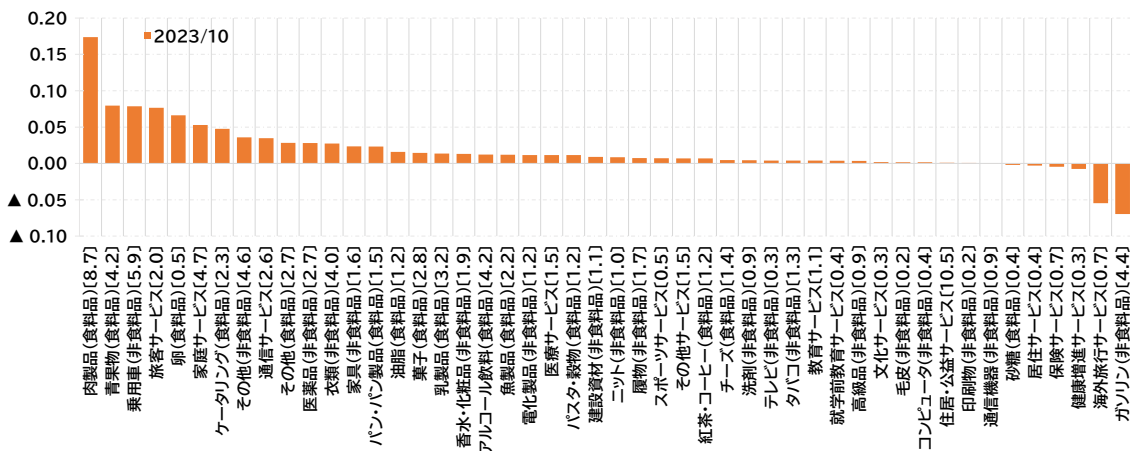


(注)各大分類の中のその他の項目は残差から計算、口内はウエイト
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 10)

(前月比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前月比寄与度)



(注)各大分類の中のその他の項目は残差から計算
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。